

# 小牧市の分析まとめと対策について【小学校】

令和5年10月

小牧市教育委員会  
教育長 中川 宣芳

## 本年度の分析にあたって

4月18日に行われた全国学力・学習状況調査の結果が公表されました。小牧市の結果について、教科によるばらつきはありますが、県平均とほぼ同等の結果となりました。

この調査の目的は、子どもたちの学力の傾向を捉えて、指導の充実・改善を図ることです。子どもたちの学力の傾向を正しく分析し、今後の授業改善に生かしていくことが大切だと考えます。

小牧市においても、子どもたちの学びの現状をしっかりと把握し、課題が残った部分を補いつつ、得意な部分をさらに伸ばしていけるような教育活動の実現につながるように、この調査結果を生かしていきたいと考えています。

## 学習態度・生活態度の状況

5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか 肯定的 74.8%  
話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができるか 肯定的 77.6%

肯定的な回答が全国平均をやや下回る値となりました。「主体的・対話的で深い学び」を意識し、よりよい授業づくりに力を入れていきます。

5年生までに受けた授業で、ICT機器をどの程度使用したか ほぼ毎日 41.6% 週3回以上 36.3%  
学習の中でICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うか 肯定的 94.7%

ほぼ毎日の使用が、全国や県平均と比べて高い値でした。タブレット端末を日常的に授業で使用していることが分かります。また、子どもたち自身もその有効性を実感していることが伝わってきます。今後もより効果的な活用方法を探っていきます。

## 算数

国語と同様に、平均正答数は全国平均と比べてやや低く、県平均とはほぼ同等の結果でした。

「変化と関係」の問題の正答率が最も高く、次いで「数と計算」の問題、「データの活用」の問題と続きました。県・全国と同じく、「図形」の問題が最も低い正答率となりました。

「変化と関係」では、伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求める問題の正答率は約90%、伴って変わる二つの数量の関係が比例の関係でないことを説明するために、表の中の適切な数の組を用いる問題の正答率は約80%と高い結果となりました。

「図形」では、正三角形の意味や性質についての理解をみる問題、また、高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断してその理由を言葉や数を用いて記述する問題の正答率が低く、課題が見られました。

短答式や記述式の問題形式で、無解答率が全国平均より高くなる傾向が見られ、問題に粘り強く取り組む姿勢に課題が残りました。

## 算数

- 「図形」の指導を充実させます。図形を構成する要素や要素間の関係に着目して観察したり操作したりする活動を通して、図形の意味や性質を捉えたり、問題解決に必要な条件を見だし活用したりできるよう、指導を工夫します。
- 問題の考え方・解き方について、仲間に説明したり説明を聞いたりする機会を多く設定し、より分かりやすい説明の仕方や効率的な解き方について考え、表現する力を伸ばします。

## 国語

平均正答数は、全国平均と比べてやや低く、県平均とはほぼ同等の結果でした。

「話すこと・聞くこと」の力をみる問題の正答率は、どちらも県平均とほぼ同等の結果でした。必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心を捉える問題では、比較的に正答率が高い結果となりました。

「書くこと」の力をみる問題は、図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する力に課題があると言えます。

「読むこと」の力をみる問題は、文章を読んで理解したことに基いて、自分の考えをまとめる力に課題があると言えます。

「情報の扱い方」の力をみる問題は、情報と情報との関連付けの仕方や図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使う力に課題が見られました。

特に選択式や短答式の問題形式で無解答率が全国平均より高くなる傾向が見られ、問題に粘り強く取り組む姿勢に課題が残りました。

## 国語

- 「書くこと」の指導を充実させます。それぞれの図表やグラフの特徴や良さを理解し、適切な使い方や文章説明との関係を意識しながら、伝えたいことを分かりやすく説明する文章が書けるよう、指導を工夫していきます。
- 「読むこと」について、文章の内容や構造を捉えた上で精査・解釈したり、理解した内容と既有的知識などと結びつけながら自分の考えを形成したりしながら読むことができるように指導をしていきます。

## 全般

- 子ども同士の関わり合いを大切に「学び合う学び」の授業に継続して取り組み、安心して学びに向かうことができる人間関係を構築するとともに、学習指導要領の示す「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、さらなる授業改善を図ります。
- 基礎的・基本的な知識・技能の定着を目指すとともに、自ら学ぶ力を伸ばすため、子どもたち自身が自分の学びをふり返ったり見通しをもったりする場面を多く設定し、自分の成長や課題を見いだす力や工夫しながら粘り強く取り組む態度を育てます。
- 一人一台タブレット端末を効果的に活用し、より多くの考えや情報に触れる中で考えを広げたり深めたりするとともに、個々の学習状況に応じたきめ細かな指導・支援を進めていきます。

学校に行くのは楽しいと思うか 肯定的 86.5%

友達関係に満足しているか 肯定的 91.7%

人が困っているときは進んで助けているか 肯定的 92.3%  
全国平均と比べて肯定的な回答がやや高い値でした。子ども同士で支え合う良好な関係が築かれていることが、楽しく安心して学校に通うことにつながっていることが分かります。

国語・算数・英語の勉強が好きか 肯定的 63.4% (国)・66.0% (算)・67.3% (英)

国語・算数の授業の内容はよく分かるか 肯定的 83.4% (国)・80.3% (算)

「好き」の回答の値が、全国平均と比べてやや高い値である一方、「よく分かる」と比べると低い値となっています。分かりやすいと同時に、より子どもたちの興味・関心を高め、それぞれの教科の楽しさ・おもしろさといった魅力が伝わるような授業づくりに努めます。

毎日同じくらいの時刻に寝ているか 肯定的 82.3%

毎日同じくらいの時刻に起きているか 肯定的 90.7%

朝食を毎日食べているか 肯定的 92.6%  
全国平均と概ね同じ結果でした。家庭での支えがあり、基本的な生活習慣が身に付いていることが分かります。

自分にはよいところがあると思うか 肯定的 83.4%

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思うか 肯定的 90.8%

教師がそれぞれのよさを認めている姿勢が子どもたちにも伝わっていることがうかがえます。さらに自己肯定感を高められるよう、一人一人に寄り添い、よいところを積極的に評価していきます。

いじめはどんな理由があってもいけないと思うか 肯定的 97.0%

肯定的な回答が高い値を示しており、規範意識の高さが表れています。いじめ防止の取組を継続していきます。

## 質問紙調査から

## 各教科の結果から

## 今後取り組む指導改善のポイント